

ナイジェリア略年譜

1804年	フルベニイスラーム導師ウスマン・ダン・フォディオが聖戦（ジハード）開始 ナイジェリア北部にソコト帝国成立（1804-1903）
1900年	北部ナイジェリア保護領、南部ナイジェリア保護領、ラゴス植民地成立
1903年	イギリス、ナイジェリア北部のイスラーム勢力の武力制圧を完了
1906年	ラゴス植民地と南部ナイジェリア保護領が統一
1914年	南北ナイジェリア保護領統一
1939年	南部州が西部州と東部州に分割
1957年	西部州・東部州自治獲得
1959年	北部州自治獲得、連邦選挙
1960年	独立（3州制）
1963年	第一共和制（中西部州新設、4州制）
1964年	総選挙危機
1965年	西部州、選挙後危機
1966年	1月、第一次クーデター、アギー・イロンシ軍事政権成立。5月、連邦制を解消、中央集権化。7月、第二次クーデター、ゴウォン軍事政権成立（8月）、連邦制復活
1967年	5月、ゴウォン政権12州制導入、イボ人虐殺が続く。 東部州が連邦離脱、「ビアフラ共和国」として独立宣言 7月、ビアフラ戦争勃発
1970年	1月、ビアフラ軍降伏、内戦終結
1975年	クーデター、ムハマッド軍事政権成立
1976年	ムハマッド元首暗殺、オバサンジョ将軍政権継承（19州制）
1979年	民政復帰、シャガリ政権成立（第二共和制）
1983年	クーデター、ブハリ軍事政権成立
1985年	クーデター、ババンギタ軍事政権成立
1987年	構造調整計画案実施
1993年	6月、大統領選挙無効（アビオラ候補勝利）。11月、暫定政権を倒し、アバチャ軍事政権成立
1995年	クーデター未遂として、約80人の将校が処刑
1996年	36州制導入
1998年	アバチャ（6月）、アビオラ（7月）死去、アブバカル軍事政権成立
1999年	民政復帰、オバサンジョ政権成立（第四共和制）
2000年	シャリーア紛争
2001年	ジョス暴動（プラト州）
2002年	アミナ・ラワル事件（-2003年）、ミス・ワールド暴動
2003年	オバサンジョ大統領再任
2007年	ヤラドゥア大統領就任
2010年	ヤラドゥア大統領死去、ジョナサン大統領就任
2011年	ジョナサン大統領再任

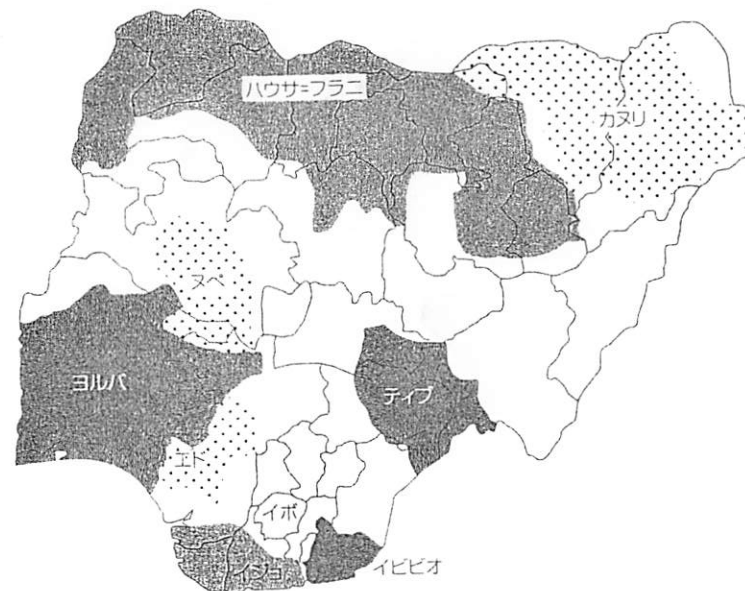
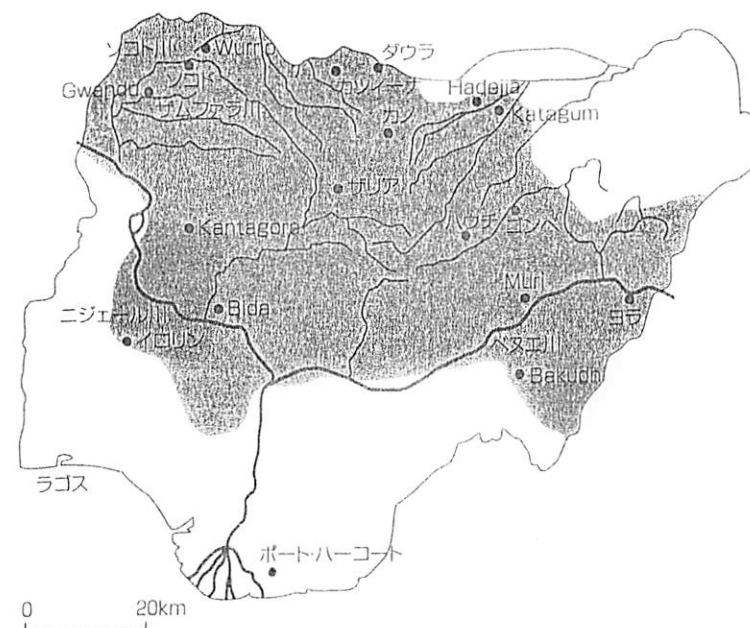


図1 ナイジェリア国内の民族分布

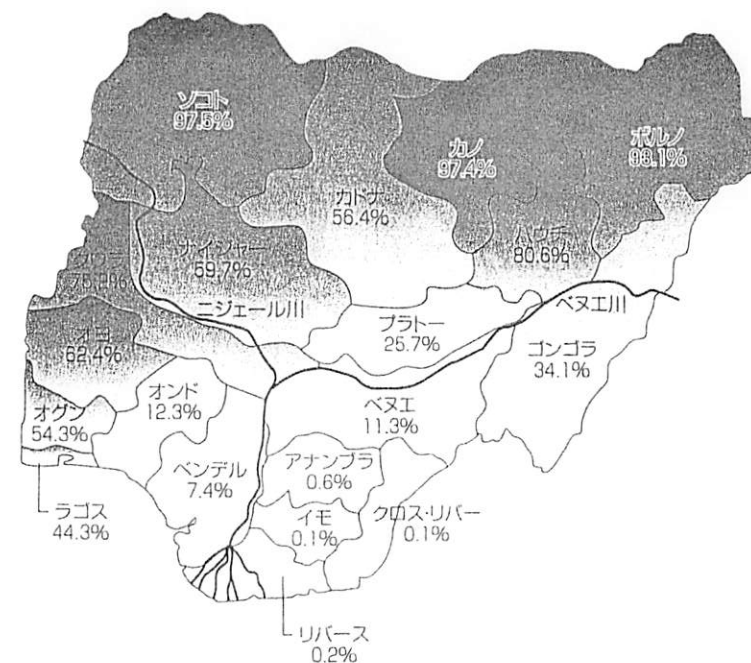


ナイジェリア領域内におけるソコト帝国の位置

表2

独立後ナイジェリアの歴代軍事政権

時期	首班の氏名	出身民族	宗教
1966年1 - 7月	アギー=イロンシ (Johnson Thomas Aguyi-Ironsi)	イボ人 (南東部)	キリスト教徒
1966年7月 - 1975年	ゴウオン (Yakubu "Jack" Dan-Yumma Gowon)	ンガス人 (Ngas/ Angas) (北部・ミドルベルトの少数民族)	キリスト教徒
1975-1976年	ムハマッド (Murtala Ramat Mohammed)	ハウサ=フラニ人 (北部)	イスラーム教徒
1976-1979年	オバサンジョ (Olusegun Mathew Okikiola Arẹmu Obasanjo)	ヨルバ人 (南西部)	キリスト教徒
1983-1985年	ブハリ (Muhammadu Buhari)	ハウサ=フラニ人 (北部)	イスラーム教徒
1985-1993年	ババンギダ (Ibrahim Badamasi Babangida)	グワリ人 (Gwari) (北部少数民族)	イスラーム教徒
1993-1998年	アバチャ (Sani Abacha)	カヌリ人 (北部)	イスラーム教徒
1998-1999年	アブバカル (Abdulsalami Alhaji Abubakar)	グワリ人 (Gwari) (北部少数民族)	イスラーム教徒



ナイジェリア各州におけるイスラーム教徒の割合 (19州制当時)

表3

軍 題 な 向 度 自 の 選 目

会談

について、突っ込んだ意見交換が行なわれたことは確かである。川島氏が議長を担ったため、

国民にわかる議長候補としては、これまで中村剛吉、田中伊三、岡田氏が有力視されていたが、佐藤・川島会談で両氏が内閣との関係でも、大物・重鎮に思われるようになった。その考えを明らかにしたことが、船田中元衆議院議員の名前が急遽浮き上がったことだ。

またこれに配する副議長候補には中野四郎、荒船清十郎、佐々木秀世氏の名前が挙がった模様である。佐藤の幹事長人事については、田中幹事長と佐藤幹事長が互いに不利な立場にある。

ナイジェリア軍は虐殺するな
ローマ法王警告
【バチカン十一日ロイター】ローマ法王パウロ六世は十一日、ナイジェリア連邦政府軍に対して、ナイジェリアの大規模な虐殺を行なわないよう警告した。

【ジュネーブ十一日AP】ナイジェリア連邦政府軍は十一日、ナイジェリア連邦政府軍の手に落ちた。同国によると、ビエラ政府軍の何人かは十日夜あるいは十一日早朝、ウリ飛行場の後で、赤十字関係者とともに無

降伏呼びかけ
ゴウォン首席
【ラゴス十一日AP】ゴウォン・ナイジェリア連邦政府軍は十一日、ビエラ軍に降伏を促すよう呼びかけた。この呼びかけは、ゴウォン軍が送る通じて行なわれ、ビエラ軍を説得しないことを表明した。

【ラゴス十一日ロイター】ゴウォン軍は十一日、ラゴスにいた兵隊と、ビエラ軍の兵隊がオシエク将軍は、オクハラ政治顧問、アクハン首席秘書を伴って、ガボンの首都リベールビルに向かったとみられている。ガボンはシナニア、サンビア、コートジボワールとともにビエラ軍と対峙を外交的に承認している。

ビアフラ崩壊

ナイジェリア内戦 政府軍、首都を占領

【ロンドン十一日小西特派員】ナイジェリア内戦は、連日政府軍が十一日ビアフラの臨時首都オウエリを占領したことによって、ビアフラ共和国は事実上崩壊し、最終的な局面にはいった。ビアフラのオシエク将軍は部下の部隊を分散させて国外にのけたといわれる。外部からの支援の、生命線をつりかねたビアフラ軍は、さらに一層窮乏状態に陥るとみられる。こうして、これまで Biafra のやり方いかんでは、大規模な飢饉を免れず、ロンドンをはじめ国際社会は長い間の内戦の収束に連日政府軍の進軍を懸念を望む声が高まっている。(3面に解説と関連記事)

【ラゴス十一日ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。【ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。【ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。

【ラゴス十一日ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。【ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。【ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。

【ラゴス十一日ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。【ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。【ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。



オシエク将軍

オシエク将軍 外脱出

【ラゴス十一日ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。【ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。【ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。

【ラゴス十一日ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。【ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。【ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。



【ラゴス十一日ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。【ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。【ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。

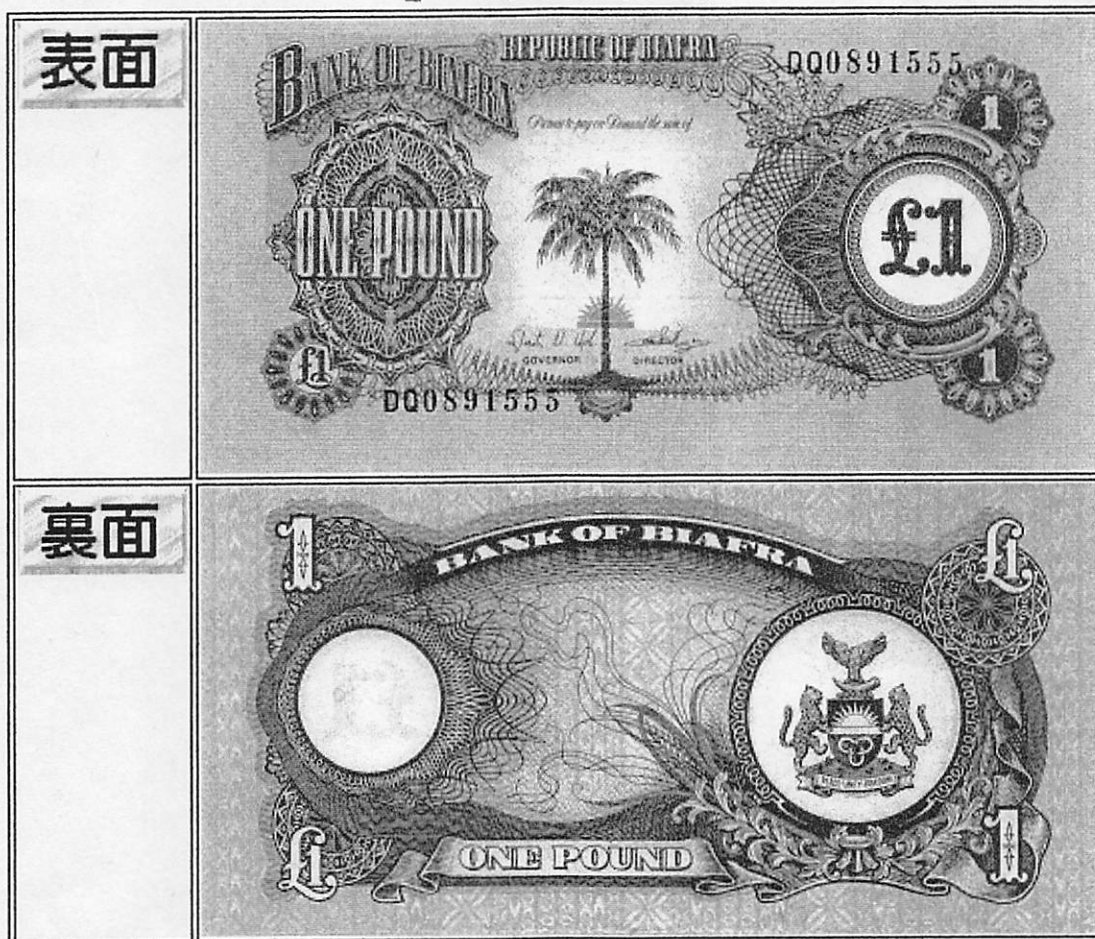
【ラゴス十一日ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。【ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。【ロイター】一日、ビアフラの臨時首都オウエリを占領した。

ダイワの

1970年1月12日 毎日新聞

《ビアフラ共和国: Biafra》

【 1ポンド札 】



《 解説 》

1967年にアフリカの中西部ナイジェリアから独立を宣言しましたが、石油資源の利害による内戦の果て、わずか3年後に崩壊しナイジェリアに再び吸収されてしまいました。この短命だった国から1ポンド紙幣と補助貨の10シリングが発行されました。

[ホームに戻る] [アフリカに戻る] [ビアフラに戻る]

切手やコインも発行。